

メディア芸術を巡る近年の状況（第13回 文化庁メディア芸術祭データ）

A. 来場者数

一日あたりの平均来場者数は、5,279人（前年比115%）、過去最高数を記録。

会期：2010年2月2日（火）～2月14日（日）

会場：国立新美術館

	2/2(火)	2/3(水)	2/4(木)	2/5(金)	2/6(土)	2/7(日)	2/8(月)	2/10(水)	2/11(木)	2/12(金)	2/13(土)	2/14(日)	合計
展示	内覧 445	1,497	2,258	3,486	5,981	8,024	2,805	3,454	8,460	5,272	7,284	9,721	58,687
イベント	式典 609	171	209	370	—	806	269	—	558	371	612	686	4,661
全体	1,054	1,668	2,467	3,856	5,981	8,830	3,074	3,454	9,018	5,643	7,896	10,407	63,348

B. 応募作品数と来場者数の推移（第1回～13回）

年度	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回	第8回	第9回	第10回	第11回	第12回	第13回
応募作品数	730	624	796	858	1,053	1,375	1,584	1,498	1,797	1,808	2,091	2,146	2,592
来場者数	2,173	3,264	12,597	5,718	12,958	16,060	16,766	24,658	27,246	26,706	44,524	55,234	63,348

C. 海外フェスティバルとの比較

海外の有力なメディア芸術系フェスティバルに肩を並べる規模に。

フェスティバルス名	開催国	会期	応募数	来場者数
第13回文化庁メディア芸術祭	日本	2010年2月3日～14日	2,592	63,348
シーグラフ2009	アメリカ	2009年8月3日～7日	1,282	11,000
アルス・エレクトロニカ2009	オーストリア	2009年9月3日～8日	3,017	72,500

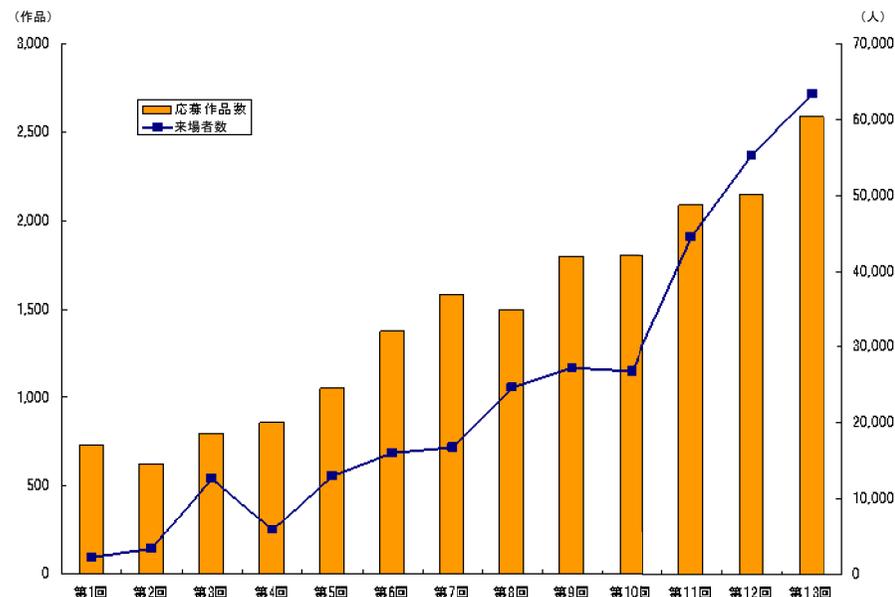
D. 海外からの応募

53ヵ国・地域 673作品

アメリカ/アルゼンチン/イギリス/イスラエル/イタリア/インド/インドネシア/ウクライナ/エクアドル/エジプト/オーストラリア/オーストリア/オランダ/カナダ/韓国/キューバ/ギリシア/クアアチア/シンガポール/スイス/スウェーデン/スコットランド/スペイン/スリランカ/スロベニア/セルビア/タイ/台湾/チェコ/中国/デンマーク/ドイツ/トルコ/ナイジェリア/ニュージーランド/ノルウェー/パキスタン/ハンガリー/フィリピン/フィンランド/ブラジル/フランス/ブルガリア/ベネズエラ/ベルギー/ポルトガル/香港/マレーシア/メキシコ/ラトビア/リトアニア/ルーマニア/ロシア
（50音順）

E. メディア芸術祭の構成

文化庁メディア芸術祭 受賞作品展	アート、エンタテインメント、アニメーション、マンガの受賞作品を展示。
シンポジウム	受賞者、審査委員、研究者、教育者、キュレーター等によるシンポジウム。
プレゼンテーション ステージ	受賞者、海外フェスティバルのディレクターらによるプレゼンテーションや、メディア芸術の活動をレポート。
ワークショップ	学生を対象として共同でミュージックビデオ(MV)を制作。
先端技術ショーケース	表現のための先端技術や研究をわかりやすく紹介。 （展示・プレゼンテーション・シンポジウム）
学生OGコンテスト 受賞作品展	若い才能の発掘を目的としたデジタル作品のコンテスト。 （展示・上映・プレゼンテーション）
Media Art in the World	世界のメディア芸術を紹介。（展示・上映・プレゼンテーション）



F. 公式ウェブサイト セッション数 <http://plaza.bunka.go.jp/>

期間	セッション数
1. 募集要項発表から締切りまで（2009年6月25日～9月25日）	333,580
2. 締切後から受賞作品発表まで（2009年9月26日～12月2日）	280,561
3. 受賞発表から2月2日まで（2009年12月3日～2010年2月2日）	335,648
4. フェスティバル開催期間（2010年2月3日～2月14日）	165,468
合計（2009年6月25日～2010年2月14日）	1,115,257

対前年 129%

メディア芸術の振興に関する平成22年度施策の概要

(前年度予算額 671百万円)
平成22年度予算額 1,515百万円

メディア芸術は広く国民に親しまれ、新たな芸術の創造や我が国の芸術全体の活性化を促すとともに、海外から高く評価され、我が国への理解や関心を高めている。
また、メディア芸術は、我が国の文化振興はもとより、コンテンツ産業、観光、国際文化交流にも資するもの。

メディア芸術の一層の振興のため、「ソフト支援」と「ヒューマン支援」を充実

ソフト支援 (発信、展示、情報収集、創作活動の促進等) 1,207百万円 (671百万円)

文化庁メディア芸術祭【373百万円】(335百万円)

- ・メディア芸術の総合的祭典として、優れた作品の顕彰、入賞作品の展示等を実施。
- ・地方展の拡充(1地域→2地域)、国内巡回展(新規:5地域)の実施

メディア芸術プラザ【45百万円】(45百万円)

- ・メディア芸術祭関連情報や入賞作品、最新情報をウェブ上で提供。

メディア芸術海外展【128百万円】(129百万円)

- ・文化庁メディア芸術祭海外展の実施。(1地域)
- ・優秀作品を海外メディア関連芸術祭に出品。

アニメーション映画の製作支援

【162百万円】(162百万円)

- ・アニメーション映画製作費の一部を補助。

世界メディア芸術コンベンション

【34百万円】(新規)

- ・世界のメディア芸術祭関係者等によるコンベンションを開催。

メディア芸術部門会議【20百万円】(新規)

- ・各分野ごとのクリエイターが連携・協力を推進する会議を開催。

メディア芸術デジタルアーカイブ

【228百万円】(新規)

- ・メディア芸術祭受賞作品や、散逸・劣化の危険性が高い作品などのデジタルアーカイブ化を実施。

メディア芸術情報拠点・コンソーシアム

構築事業【217百万円】(新規)

- ・メディア芸術に関する情報収集・発信や関連の文化施設、大学等の連携・協力の拠点機能を果たす情報拠点・コンソーシアムを構築。

ヒューマン支援 (人材育成) 308百万円 (新規)

メディア芸術クリエイター育成支援事業【67百万円】(新規)

- ・若手クリエイター等が行う創作活動、国内各地の施設が行うワークショップ・公開講座・調査研究等に関する事業を支援。

若手アニメーター等人材育成事業【215百万円】(新規)

- ・制作スタッフに若手人材を起用し、制作段階でオン・ザ・ジョブ・トレーニング(OJT)を組み込んだ実際のアニメーション制作現場における人材育成を実施。

海外メディア芸術クリエイター招へい事業【26百万円】(新規)

- ・海外の優秀な若手クリエイターを招へいし、研修・研究の機会を提供。

日本映画の振興に関する平成22年度施策の概要

(前年度予算額 1,508百万円)
平成22年度予算額 1,599百万円

多くの人々に支持され親しまれている総合芸術であり、かつ海外への日本文化発信の有効な媒体である日本映画の振興を進める。

日本映画の創造・交流・発信

予算額 1,072百万円 (1,073百万円)

- ①芸術創造活動特別推進事業(映画製作への支援)
- ②フィルムコミッションの活動支援
- ③ロケーションに係るデータベースの運営
- ④文化映画賞
- ⑤海外映画祭への出品等支援
- ⑥全国映画祭会議
- ⑦アジアにおける日本映画特集上映事業
- ⑧「日本映画情報システム」の整備

自律的な創造サイクルの確立

人材の育成と社会的認知の向上

若手映画作家等の育成

予算額 180百万円 (182百万円)

- ①短編映画作品支援による若手映画作家の育成
- ②映画関係団体等の人材育成事業の支援

映画フィルムの保存・継承

我が国の映画フィルムの保存・継承

予算額 347百万円 (253百万円)

フィルムセンター機能充実経費

(参考)

フィルムセンター相模原分館増築

- ・施設 3,035百万円(平成21年度第一次補正)
- ・設備 996百万円(平成22年予定額)

我が国の存在感を高める日本映画の振興と日本文化の理解の促進